



目片千恵 硝子の抒情詩

2021年6月19日(土) ~27日(日)

GALLERY  
うつわノート

硝子は  
空っぽのように  
すきとって見える。

けれども  
たくさん重なると、  
海のように青い。

文字は  
蟻のように  
黒くて小さい。

けれども  
たくさん集まると、  
黄金のお城の壱もできる。

金子みすゞ

料金後納  
ゆうメール

## 目片千恵 硝子の抒情詩

2021年6月19日(土)～27日(日)

営業時間 11時～18時

作家在廊日 6月19日

ギャラリーうつわノート 埼玉県川越市小仙波町1-7-6

童謡詩人・金子みすゞの「硝子と文字」。平易な言葉で綴った抒情的な世界です。硝子という言葉を使った詩篇がいくつかありますが、目片千恵さんのガラス展に合わせてこの詩を取り上げてみました。目片さんのガラスの特徴は、曲面に沿った研磨のラインと淡い色合いです。ガラスを宙吹きした後、その形に沿って丹念に研磨してラインを作り出します。それを再び電気炉に戻して表面を和らげることで、光を拡散する柔らかな色調が生まれるのです。硬質なガラスでありながら、優しく曖昧な儂さ。それは抒情的で内面から湧き出る感情を引き起こします。それは万物を慈しみに満ちたまなざしで見つめ、何気ないものごとの本質を表現した金子みすゞの詩の世界に通じるように思います。今展では夏の食卓に欠かせないコップ、ボウル、プレートなどの食器をはじめ、一輪挿し、茶入、蓋物などのエレガントな小道具も出品されます。金子みすゞの詩のごとく淡き抒情のガラス。うたかたの思い出。どうぞ皆さまの心の中にほのかな詩を思い浮かべてください。

店主

### プロフィール

1972年 東京に生まれ

2001年 能登島ガラス工房 吹きガラス講座修了

2001年 牧山ガラス工房(石川県)にて製作を始める

2021年 現在、滋賀県大津市にて制作



電車：川越駅(東武東上線・JR)より徒歩25分

本川越駅(西武新宿線)より徒歩20分

バス：駅東口3番乗場 [小江戸名所めぐり]～[喜多院前]

駅西口2番乗場 [小江戸巡回バス]～[喜多院]

車：ギャラリー専用駐車場3台分有

